

# 手作り楽器による実践と考察

-その現状と可能性について-

Practice and consideration by handmade instruments

-On its current state and possibilities-

谷中優(日本作曲家協議会)

Suguru TANINAKA (JFC)

(キーワード)

手作り楽器(音具)、創造的音楽教育、創作表現活動

## 1. 手作り楽器について

### (1) 手作り楽器の定義

最初に「手作り楽器」を次のように定義する。

《身近な材料を使って音の出るものを自作したものを「手作り楽器」という》

また「手作り楽器」は次のようにも呼ばれる。

- ・創作楽器
- ・音具(おんぐ)
- ・創作音具

基本的に、手作り楽器は「身近にある材料を使って音のでるものを自作したもの」をいう。

### (2) 手作り楽器による活動の現状

近年、手作り楽器を用いた活動は学校の音楽教育現場以外においても拡大されている現状がある。それは価値観の多様化と相まって、様々な分野からのニーズが増加したことに起因している。ここでは手作り楽器を取り巻くそれらの現状に目をやり、情報収集と分析をとおしてそれらの要因を探る。

## 2. 手作り楽器の可能性

ここでは1.(2)で述べた現状や要因を元に、社会全体としての手作り楽器の意図性や、近未来に向かう様々な可能性について考察する。音楽教育における手作り楽器の実践活動においては、既に多くの成果をもたらしているものである。参考までに教育現

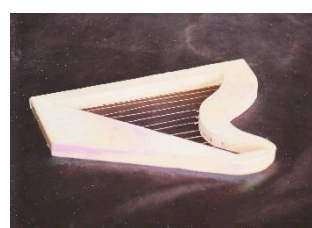
場における子どもの作品=手作り楽器の幾つかを示す。

資料1-4は小学生の作品(手作り楽器)である。それぞれ1.空き箱を利用し弦を張った「箏」、2.板を切り抜き、弦を張った「たて琴」、3.ビニールホースを利用し、歌口を付けた「笛」、4.竹を割り、内側に弦を張った「箏またはギター」である。図工的にもよく手が加えられ、より良いものを作ろうとしていることが読み取れる。

(資料1)



(資料2)



(資料1)



(資料2)

